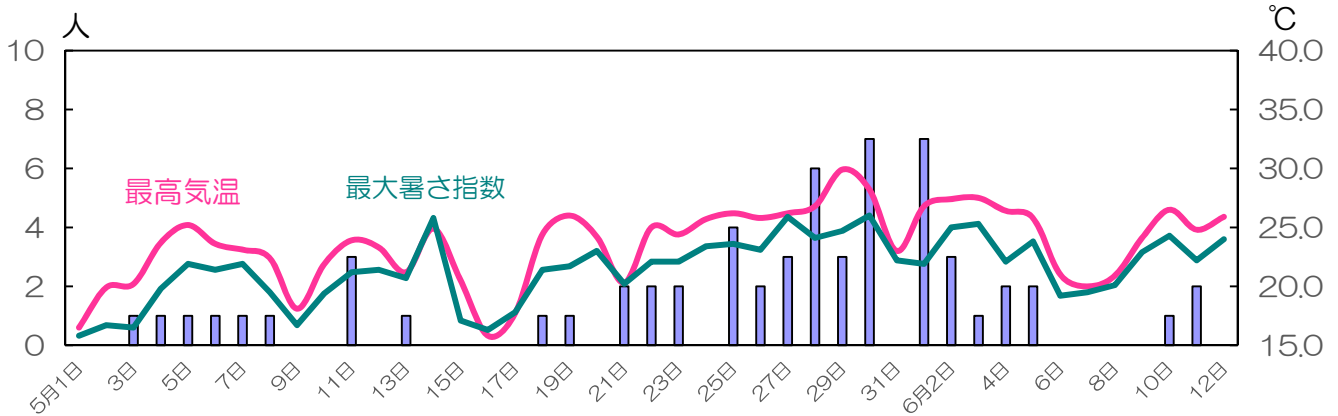


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和4年5月1日～6月12日までの搬送数（消防局データを使用）は、計61人（5月43人、6月18人）でした。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



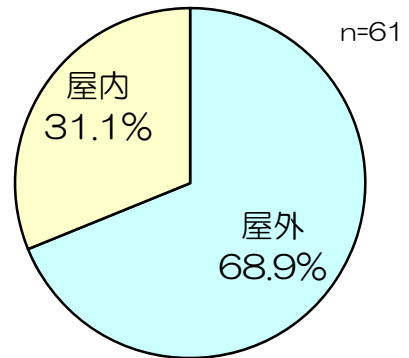
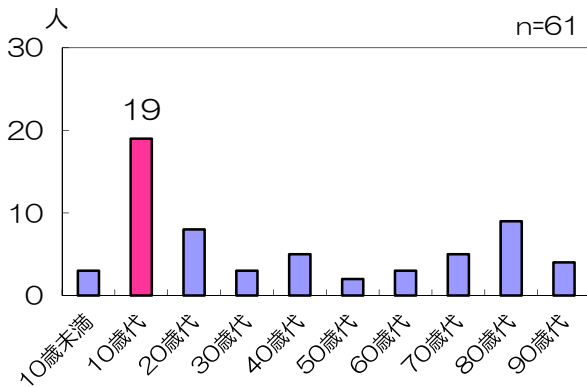
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

10歳代が19人（31.1%）で最も多く、そのうちの17人がスポーツ（部活・体育祭）等、運動競技中の発症でした。

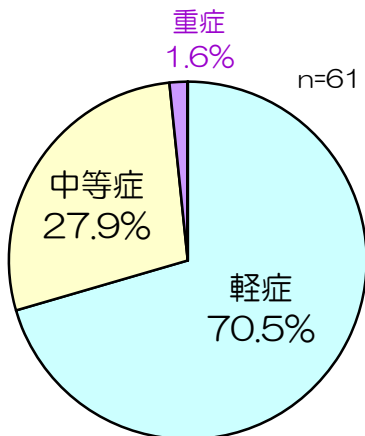
## <発生場所>

屋外68.9%、屋内31.1%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症70.5%、中等症27.9%、重症1.6%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が45.0%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。



乳幼児（0～6歳）  
n=1  
少年（7～17歳）  
n=19  
成人（18～64歳）  
n=21  
高齢者（65歳以上）  
n=20

